

## 平成28年仕事始め式 市長訓示

平成28年1月4日午前9時  
越前市民ホール大ホール

新年明けましておめでとうございます。

職員の皆さんには、お健やかに新春をお迎えることとお慶び申し上げます。

また、皆さんには昨年も、「元気な自立都市越前」の創造に向け、それぞれの部署で市民福祉の向上や市民との協働のまちづくりに努めるとともに、東日本大震災の被災地である宮城県塩竈市の支援など、幅広い活動にご尽力いただき、誠にありがとうございました。

さて、昨年を振り返ると、10月1日に市制施行10周年を迎え、「子どもたちの未来に輝く『ふるさとえちぜん』」をテーマに10月10日に記念式典を開催しました。

また、「市の鳥」であるコウノトリの「げんき

くん」と「ゆめちゃん」の放鳥が10月3日に行われるとともに、越前和紙・越前打刃物・越前箆笥など、伝統産業の振興と産業観光による地域活性化を図るため、3月に市工芸の里構想を策定するなど、本市の豊かな自然環境や越前国府の歴史と文化、1500年の歴史を誇る伝統工芸やものづくりの技術を強くアピールし、今後のまちづくりの方向を明らかにする絶好の機会であると考え、9月市議会での議決をいただき、「環境・文化 創造都市宣言」を行いました。

2年前の市長選挙のマニフェストに掲げた「半世紀に一度のまちづくり」については、平成30年の「福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会」に向け、武生中央公園の新体育館の起工式を8月19日に行うとともに、本庁舎と今立総合支所の改築に向け、9月に基本構想・基本計画を策定し、今月からは基本設計の

策定に着手します。

また、北陸新幹線については、平成35年春の「南越駅（仮称）」の開業に向け、駅へのアクセス道路や「道の駅」としての施設の整備、二次交通などを取りまとめた北陸新幹線南越駅周辺整備基本計画を12月に策定し、本年から基本設計等の策定に取り組んでいきます。

このほか、都市基盤の整備では、平成25年に開通した都市計画道路戸谷片屋線を広域農道まで延伸する市道第3622号線が10月16日に供用開始し、越前市の環状網としての交通ネットワークがついに完成しました。

教育や文化では、平成20年度に策定した市学校施設耐震化推進計画に基づき、8年間をかけて実施した小中学校19校44棟の耐震補強等工事が10月末に完了し、学校施設の耐震化率が100%を達成するとともに、平成26年度から始めた市文化センターの耐震補強等工事

も完了し、5月から管理棟と小ホールの、9月からは大ホールの使用を再開しました。

福祉の分野では、子ども・子育て支援新制度の実施に向け、市子ども・子育て支援事業計画を3月に策定し、「かこさとしふるさと絵本館 硯」の中に子育てひろばを開設するなど、特色ある子育て支援を行いました。

高齢者福祉では、第6期市高齢者福祉保健計画・介護保険事業計画を3月に策定し、10月には市介護予防・生活支援サービス協議体を設置するとともに、12月にはさわやか福祉財団と協定を結ぶなど、高齢者が住み慣れた地域で暮らせるまちづくりの推進に努めました。

障がい者福祉では、市障がい者計画・障がい福祉計画(第4期)を3月に策定し、障がい者の地域生活への移行、一般就労への移行等を図っています。

さらに、市空家等対策計画や市コウノトリが

舞う里づくり第2次実施計画、市水道ビジョンの策定に向け、パブリック・コメントを実施するなど、各分野において着実な事業の推進を図ることができた1年でした。

これも偏に、市議会や市民の皆様のご支援、並びに職員の皆様のご尽力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

さて、本年の抱負ですが、越前市は県内第1位の製造品出荷額を誇る産業都市であり、昨年10月に発表された平成26年の本市の製造品出荷額は4,718億円と、前年を417億円も上回り、本県の25%余りを占めています。

こうした成果を踏まえ、「事業の持続的発展」を柱とする中小・小規模事業者への施策の強化や、企業立地支援制度の拡充などをポイントとする市産業活性化プランを10月に改定したところであり、市内企業の好調な業績と旺盛な求人追い風に、生産年齢人口の確保を図り、人

口減少に歯止めをかけるため、11月には「女性が輝くモノづくりのまち～子育て・教育環境日本一～」をタイトルに掲げる市総合戦略を策定しました。

そこで本年は、この戦略に基づき、働く人の確保と市内居住を促進する施策や、安心して出産や子育てができる施策の推進を積極的に図るとともに、本市の魅力や各種情報を発信するイメージアップや、観光振興など交流人口の拡大に力を注ぎ、総合的な施策の推進を通して人口減少に歯止めをかけ、「元気な自立都市 越前」の創造を図っていききたいと決意しています。

併せて、「平成28年度当初予算編成方針」の中で、重点的に予算を配分する重点項目に位置付けた「人口問題・定住化対策の推進」をはじめ、「まちづくり基盤整備の推進」「次世代を育む施策の推進」「環境や文化と調和した産業の育成」「地域防災力の充実強化」の一層の

推進を図っていききたいと決意しています。

また、昨年11月にエストニアで開かれた、フェンシング男子エペワールドカップにおいて、本市出身の見延和靖選手が個人戦で優勝し、日本人初の歴史的快挙を成し遂げました。

11月に発表された世界ランキングは、日本人トップで自己最高の8位に上昇し、リオデジャネイロオリンピックへの出場が有力視されています。

4年前には佐藤希望選手が、本市出身者としては40年振りに、ロンドンオリンピックに出場を果たしています。

12月に東京で開かれたフェンシング全日本選手権大会では、個人戦で佐藤希望選手が2年連続優勝を、見延和靖選手が初優勝したことから、本年は見延選手と佐藤選手がリオデジャネイロオリンピックに出場し、市民の皆さんと盛大に応援ができることを心から願っています。

職員の皆さんも、オリンピックを目指す見延選手や佐藤選手と同様に、「半世紀に一度のまちづくり」に取り組む越前市の将来に大きな夢を描き、本年もそれぞれの部署で職務に精励し、「現地現場主義」を通して市民のニーズを的確に汲み取りながら、市政の発展と市民福祉の向上にご尽力いただくことをお願いします。

その際に、「着眼大局、着手小局」を心掛け、20年先・30年先の越前市を見据える大局観を持ちながらも、目の前の課題に丁寧に取り組み、当たり前前のことを当たり前前に実践する風土を庁内に築いていくことを、本年も強く求めるものです。

併せて、何事においても前例にとらわれることなく、全職員が従来の思考や手法を大胆に見直していく気概を持ち、特に若手職員や女性職員が積極的な提案を行うとともに、その提案を上司がしっかりと受け止め、着実に業務改善を

図っていく、柔軟で明るい職場づくりを進めて  
いきたいと考えています。

結びに、本年も皆さんが心身ともに健康で、  
市政の発展と市民福祉の向上のために大いに活  
躍されることを祈念し、「平成28年 仕事始  
め式」の訓示といたします。

本年も、よろしく申し上げます。